

CMA×PBダブル資格者に聞く、 プライベートバンカー資格

超高齢社会に突入した日本では、相続や事業承継といった課題に直面する富裕層・企業オーナーも多く、このような課題に取り組むプライベートバンカーの存在は、近年欠かせないものとなっています。

事業全体の流れをつかみ、その分析やビジョンの立て方、差別化の方法、上場企業の財務諸表からリスクを読み取る識別眼、アナリストレポートで会社の意図を投資家に伝えるための表現方法など、証券アナリストの観点や経験は、企業オーナーへのコンサルティングはもちろん、あらゆる分野で生きるスキルです。

CMAでありかつPB資格を取得された会員の皆様にご登場いただき、受験の経緯やダブル資格の活用、また受験した感想等について、お話を伺います。

1. 都市銀行の支店勤務時代にCMAを目指す

材料工学系出身者には縁のなかった証券・ポートフォリオ分析

工学部を出てもエンジニアとはならず金融機関に就職した兄の影響で、大学では材料工学を専攻しておりましたが卒業後は都市銀行に入行しました。最初は支店に4年間勤務し法人・個人への融資業務を担当しました。財務・法務など金融業務に必要な知識を一通り学び、次は何を学ぼうかと考えていた頃に興味を持ち始めたのが、証券アナリスト（CMA）資格でした。

理系出身でそれまでは体系的に学ぶ機会のなかった「経済」の勉強ができるし「財務分析」のスキルアップにも繋がると考え受講を始めましたが、馴染みのない「証券分析とポートフォリオ理論」は手強く、果たして必要なのだろうか？という疑念も持ちながら受講していました。

そんな折、CMAに挑戦中であることもプラスに働いたのか、初めての異動で念願のディーリングルーム配属となりました。コマーシャルペーパーのディーラーや為替カスタマーディーラーなど、結果的にはCMAで培った知識を土台に、その後は市場系の業務に励むことになりました。

海外駐在、CIIAも取得

CMAを取得後ロンドンに異動となり、通貨オプションセールスなど引き続き市場系の業務を担当する中で、さらに国際資格を取ろうと決意してCIIAの受講を開始し、帰国後に取得しました。これら一連の取得で得た「株式分析」「債券分析」の知識は、今でも自分の中で「物差し」の役割となっています。

2. 大阪でPB業務を開始

シニアPB資格に挑戦

同期の行員から「市場系キャリアが長いので、それをプライベートバンカーとして活かせる」という意見ももらい、「マイホームがある関西に根づいた仕事がしたい」との意向もあった縁で、2009年から現在の証券会社に出向し、2010年からは大阪勤務となりました。



三菱UFJモルガン・スタンレー
PB証券
佐藤 英之 氏
CMA×シニアPB

最初は一方的だった個人顧客とのコミュニケーション

個人顧客相手に、最初は自分の専門であるマーケットの情報を懸命に伝えようとしていました。しかし、それまで自分が相対していた法人顧客とは勝手が違いました。マーケット情報よりも相続や事業承継など他の点に関心が高いお客さまの方が多いことに気づかされました。

個人業務の経験の少なさを補うためにFP資格を取得し、資産管理や相続等について一定レベルの知識を得ることにしました。そのおかげで個人顧客が興味のある話題で徐々に話ができるようになっていきました。ただ自分が一方的に話すことも多く、キャッチボール的なコミュニケーションの必要性を切望していた頃に、協会がプライベートバンカー資格を始めることを知り、シニアPBへのチャレンジを決断しました。

あらゆる角度から課題を検討する経験が役に立つ

CMAで学んだ知識は、投資する金額が所与の前提で活用するものですが、シニアPB資格取得を通して学んだ知識は、顧客とのコミュニケーションにおいて、投資する金額や相続の考え方などを決めていく過程で生きてくる知識だと感じました。

PB資格科目の「RM」や「WM」は、お客さまのことを知りその夢の実現のための投資戦略を検討していくプロセスにおいて役立ち、自分の「プライベートバンカーとしての質」を引き上げることになったと思います。

筆記試験は何度か受けることになりましたが、毎回取り組む課題は実際にもありそうなファミリーの設定であり、課題対策に費やした時間は自分にプラスになりました。海外現法を設立して事業拡大を図ったり、医療法人の事業承継・相続を考えたりなどと、様々なケーススタディにおいてあらゆる角度から課題を検討した経験は、自身の引き出しを増やすことに繋がりました。

また名刺にシニアPB資格を載せることで、初めてお会いするお客さまには「シニアPBを取得するレベルの知識があるバンカー」と評価頂いています。

3. ダブル資格者として

CMAにとって有益なシニアPBへの挑戦

CMAの皆さまがシニアPBへ挑戦されることは非常に有意義なことだと私は思います。

税金や不動産などの知識はもちろんのこと、ファミリーとの付き合い方、プライベートバンカーとしての心得など得られるものは幅広いと感じています。

「担当を代わらないでほしい」と顧客に言われる幸せ

お客さまには資産管理を通して幸せを享受頂きたいと思っています。長く担当しているお客さまに「君に担当してもらって良かった。これからも担当を代わらないでほしい」と言って頂ける瞬間は、何ものにも代えがたい喜びとこの業務のやりがいを感じます。

今後もお客さまの夢の実現をサポートすることで、社会に貢献できれば幸せだと思います。AIがアドバイザーとして活躍する世の中が到来し、よりアドバイスの精度や内容が問われる時代となりますが、お客さまのご期待を超えるバンカーであり続けようと思っています。

★「CMA×PBダブル資格者に聞く」バックナンバーは、協会ホームページ>プライベートバンカー資格>CMA（検定会員）の方 からご覧頂けます。